第 17 回　全国大会プログラム案

2018 年 4 月 7 日
日本国際文化学会事務局

1. 概要

・日時：2018 年 7 月 6～8 日
7 月 6 日（金）エクスカージョン（横須賀）
7 月 7 日（土）シンポジュウム、共通論題、自由論題、情報交換会など
7 月 8 日（日）フォーラム、総会、共通論題、自由論題など

・会場：多摩大学湘南キャンパス　（252-0805　神奈川県藤沢市円行 802 番地）

2. 日程案

【7 月 6 日（金)】

協力：横須賀市
日時：平成 30 年 7 月 6 日（金）
訪問地：神奈川県横須賀市の国際関係・文化に関連する史跡
参加費：1500 円（バス代、駐車場代、参観料等）
※参加申し込みについては後日お知らせいたします。

時間	プログラム	場所
12：30	集合　京急横須賀中央駅　改札集合	京急横須賀中央駅
13：00～14:00	記念館「三笠」見学	
14：30～15:30	浄土寺（三浦按針の菩提寺）・按針塚	
16：00～17：00	現在折衝中	
17：30	解散	京急横須賀中央駅

【7 月 7 日（土)】

時間		プログラム	場所
09：00		受付・手荷物預かり	アゴラ
10：00～ 12：00	自由論題Ａ 戦争、反戦、 テロリズム	「焼かれた身体」と「焼いた身体」にまつわる受苦のイメージ－焼身行為における苦痛と原爆の苦痛の連関－ 阿部碧（一橋大学社会学研究科総合社会科学専攻博士後期課程）	Ｅ202
		民主化後のインドネシアのテロリズム－アルカイダ、ＩＳ（イスラミック・ステート）と国内テロ組織への影響に関する考察 大形利之（東海大学国際文化学部国際コミュニケーション学科教授）	
		グローバル授業で学ぶ「戦争」・「大規模暴力」・「記憶」・「和解」－Topics of Modern and Contemporary History における授業実践の経験から－ 中野聡（一橋大学大学院社会学研究科教授・一橋大学副学長）	
		非核都市宣言をめぐる地方的展開 －福岡県内の自治体を事例に 大和裕美子（九州共立大学経済学部講師）	
	自由論題Ｂ 異文化の理解と交流	駐日外交団付通訳官とその日米交流ネットワーク －「加藤冬作関係資料」を中心に－ 飯森明子（早稲田大学アジア太平洋研究センター特別センター員）	Ｅ204
		岡千仞の清国認識の再検討 閻秋君（東北大学大学院博士後期課程２年）	
		隋唐代中国の外国人僧侶像からみる文化交流のあり方 王媛（多摩大学非常勤講師）	
		戦時下の日独文化交流－日独合作映画『國民の誓』を例に 中川拓哉（名古屋大学大学院人文学研究科博士候補研究員）	
	自由論題Ｃ 文学から見る 文化と思想	梁啓超と「今文学」運動～清代学術思想の流れについて 王佳超（龍谷大学国際文化研究科修士２回生）	Ｅ208
		ウィリアム・モリスと「社会主義の宗教」－柳宗悦の民藝思想との比較に向けて－ 島貫悟（東北大学大学院国際文化研究科博士前期課程）	
		1980 年代中国における「ハイク・ムーブメント」 菅野敦志（名桜大学国際学群上級准教授）	
		堀辰雄『大和路・信濃路』の半跏惟像の表象に見る普遍文化的特性－マルセル・プルースト受容との関連において－ 高橋梓（近畿大学専任講師）	
	自由論題Ｄ	インパール作戦における旧帝国陸軍との接触の記憶と語り継ぎ－インド北東部ナガの事例 太田哲（多摩大学グローバルスタディーズ学部准教授）	教室未定

	歴史を記憶し現代に生かす試み	歴史実践としての朝鮮通信使関連文化事業－韓国側の取り組みに見る－山口　祐香（九州大学大学院地球社会統合科学府博士課程）	
		藤澤湘南地域の戦争を振り返る－アクティブラーニングと地域連携を通じた新たな歴史遺産創造の可能性 藤田　賀久（多摩大学グローバルスタディーズ学部非常勤講師）	
		スイスのラジオ戦争－Ｊ．Ｒ．フォン・ザーリスのニュース番組「世界クロニクル」を軸に－ 葉柳和則（長崎大学教授）	
12：00	昼食・お弁当引き渡し		E 棟 1 階
12：10～ 13：00	常任理事会・理事会		W301
13：00～ 15：00	共通論題① 文化触変論の適用可能性と理論的拡張の試み ―アフリカ、東南アジア、21 世紀 （代表者：馬場孝）	「総論と問題提起」 馬場孝（静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科教授）	E 202
		「アフリカへの適用とモデルの修正」 松田素二（京都大学大学院文学研究科教授）	
		「近代ベトナムへの適用と分析」 岡田建志（静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科教授）	
		「21 世紀の文化触変－理論的モデルの模索」 加藤裕治（静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科教授）	
	共通論題② スポーツと国民意識の形成――明治神宮競技大会、東亜競技大会、1940 年の東京五輪を手がかりに （代表者：鈴村裕輔）	「企画の趣旨と発表の概要」 鈴村裕輔（法政大学国際日本学研究所客員学術研究員）	E 204
		「第 9 回極東選手権競技大会（1930 年）における英領インド選手団代表旗問題」（仮題） 冨田幸祐（一橋大学大学院博士後期課程）	
		「諸国民の祭典としての東亜競技大会」 （鈴村裕輔）	
		「メディア・オリンピック」としての 1940 年東京五輪」（仮題） 浜田幸絵（島根大学法文学部准教授）	
	共通論題③ 「二重排除」を生きる「弱者」たち ― 女性・高齢者をめぐる「排除」の文化・社会的構造の分析 ― 代表：相原征代	呉静凡 （お茶の水女子大学大学院人間発達科学専攻 博士 1 年）	E 208
		中山佳子 （名古屋大学大学院人文学研究科人文学専攻 博士 1 年）	
		久保 実希（岐阜大学応用生物科学部 2 年）	
		吉岡剛彦（佐賀大学教育学部 教授）	
15：15～	公開シンポジュウム		E 301

	基調講演 15：30〜16：40	寺島実郎（多摩大学学長） 「知の再武装―人は何をするべきか」	
	パネル・ ディスカッション 16：50〜18：20		
18：30〜	情報交換会　（多摩大学　湘南キャンパスカフェテリア）		

【7 月 8 日（日）】

時間		プログラム	場所
08：00		受付	
09: 00〜 11：00	自由論題 E 画像・映像による文化理解	タルコフスキー映画『鏡』は自伝であるのか －「映像のナラトロジー」で読み解く作品構造 原友理枝（法政大学大学院国際文化研究科国際文化専攻修士 1 年）	E 202
		風刺画描写における表現様式の模倣と応用 －Review of Reviews とアメリカ合衆国諸誌にみられる風刺画家の「知」の交流－（仮題） 深松亮太（神奈川工科大学非常勤講師）	
		近世の娯楽の文化における天正カルタ －近世初期風俗画を中心に マスキオ・パオラ（法政大学大学院国際日本学インスティテュート文学専攻博士後期課程 3 年）	
		日本映画界における鈴木清順 －「周縁」にあり続けた監督 関愛善（早稲田大学総合人文科学研究センター招聘研究員）	
	自由論題 F ツーリズムの創出と可能性	大学生が観光まちづくりに参画する STU-RISM プランニング手法について 斉藤　理（山口県立大学国際文化学部教授）	E 204
		キリスト教関連遺産が観光資源になるとき ―長崎県平戸島を例に デラコルダ川島ティンカ（広島大学講師）	
		越境する文化や景観の観光利用 －イギリス・コーンウォールとメキシコ・イダルゴの事例より 堂下恵（多摩大学グローバルスタディーズ学部教授）	

		済州４．３事件をめぐるダークツーリズムの生成と観光経験 韓準祐（多摩大学グローバルスタディーズ学部専任講師）	
	自由論題Ｇ 現代アジアへの視座	現代韓国社会の民主性についての考察 －民衆歌謡歌手の創作活動現場を通じて－ 齋藤絢（名古屋外国語大学助教）	E206
		日中観光ビジネスにおけるリスク管理の諸相 －中国広州市の日系旅行社を例として 田中孝枝（多摩大学グローバルスタディーズ学部専任講師）	
		インドネシアのアブラヤシ農園におけるニアス人労働者 －サバルタン論の観点から 中島成久（法政大学国際文化学部教授）	
		現代日本における東南アジア表象 －バラエティ番組における分析から－ 齋藤大輔（青山学院大学地球社会共生学部助教）	
	自由論題Ｈ マイノリティへの視座	シンガポールにおける４７年ぶりのマレー人大統領の誕生に関する論議について －「マイノリティへの配慮」に対するマイノリティ側の反応－ 市岡卓（法政大学大学院国際文化研究科博士後期課程修了）	E208
		在欧トルコ人の参政権 －欧州ポピュリズムとトルコ権威主義の衝突 櫻井幸男（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科博士後期課程）	
		日本の多文化社会に見る「音」とナショナリズムの問題 －ヘイト・スピーチの現場から 武市一成（拓殖大学外国語学部講師）	
		『台湾日日新報』にみる沖縄県系人の文芸活動 照屋理（名桜大学国際学群上級准教授）	
	自由論題Ｉ 理論的考察	戦後日本における「国益」概念の淵源 －"national interest"の受容をめぐる翻訳論的考察－ 大山貴稔（東京福祉大学国際交流センター特任助教）	教室未定
		人類史上 1%未満の国民国家？ －アザー・ガットとシニシャ・マレシェヴィッチの所説を巡って－小島　望（明治大学兼任講師）	
		DoubRing：異文化の思考回路の多様性を定量化・可視化するための方法論 細谷功（オフィス１３４）	
		市民の生存保障と換骨脱胎策の国際交流事業 －ある行政職員（故人）の事業足跡から 石川孝樹	
11：00	昼食・お弁当引き渡し　（～13：30）		E301

11：10～ 12：50	総会　第８回平野健一郎賞表彰式 文化交流創成コーディネーター資格表彰 （合格証授与、ベスト・プレゼン賞学生発表）		E301
13：00～ 14：30	フォーラム		E301
14：45～ 16：45	共通論題④ 日本への留学生と彼らのその後――中国･韓国･台湾の比較の観点から 代表：加藤恵美 司会者兼討論者：森川裕二　（長崎大学、教授）	「韓国の事例」 金香男（フェリス女学院大学教授）	E202
		「中国の事例」 鄭成（早稲田大学研究員）	
		「台湾の事例」 野口真広（早稲田大学研究員）	
		「事例間の比較」 加藤恵美（早稲田大学研究員）	
	共通論題⑤ グローバル化する原爆の記憶とその諸相―「ヒロシマ・ナガサキ」の形成と展開 代表：根本雅也 討論者：藤田賀久（多摩大学）	戦後被爆地の出発―「平和都市」としての「ヒロシマ」、「国際文化都市」としての「ナガサキ」 桐谷多恵子（長崎大学）	E204
		ヒロシマと中国―広島平和記念資料館と南京大虐殺記念館（仮）楊子平（広島大学）交渉中	
		アメリカにおけるヒロシマ・ナガサキの「受容」 根本雅也（日本学術振興会）	
		グローバル・ヒバクシャとは何か―マーシャル諸島の「ヒバクシャ」を中心として 竹峰誠一郎（明星大学）交渉中	
	共通論題⑥ 日欧比較文化再考 代表：松居竜五	松居竜五（龍谷大学国際学部教授）	E206
		ルヴァン・カルドネル（龍谷大学国際学部教授）	
		杉本バウエンス･ジェシカ（龍谷大学国際学部准教授）	
		ミロシュ・デブナール（龍谷大学国際学部専任講師）	